

経済動向調査レポート

令和5年 第1四半期

(調査対象：令和5年1月～3月)

福崎町商工会

令和5年6月

【目次】

I. 経済動向のポイント	2
II. 兵庫県の経済・雇用情勢	3
1. 概況（全体の状況）	3
2. 県内の主要業種の概況	7
3. 地域の概況	9
III. 景況調査	14
1. 景況調査について	14
2. 概況（全業種）	15
3. 業種ごとの集計	17
①製造業（有効調査数：188件）	17
②卸売業（有効調査数：48件）	18
③小売業（有効調査数：66件）	19
④サービス業（有効調査数：80件）	20
⑤建設業（有効調査数：104件）	21
⑥不動産業（有効調査数：30件）	22

○本レポート作成の目的

地域の経済・消費動向の現状を把握し、その情報を提供することで小規模事業者が経営方針を明確にし、経営分析および事業計画の策定に有効活用できるようにし、小規模事業者の売上や利益の増進に繋がるなど経営基盤の強化につなげることを目的とします。

○本レポートの作成方法

福崎町商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に他の調査や情報とも比較してレポートを作成します。

I. 経済動向のポイント

【1】 兵庫県の経済・雇用情勢

① 兵庫県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

各指標で「足もと改善」「持ち直し」「堅調な動き」となっている。一方、倒産件数は前年を上回り、雇用者所得も弱めの動きとなっている。

② 県内の主要業種の中には、円安により売上・利益が押し上げられている業種もある。

「その他製造業」で直近期の売上高は過去最高を記録するなど景況感は良い。その他の業種は原燃料高の影響はあるが、価格転嫁も進んでおり、少しは状況が良くなる。

③ 各県民局・県民センターを代表する業種も、価格転嫁交渉を進めている。

福崎町を管轄する中播磨県民センターでは、「総合工事業」「化学工業」の2業種について分析しており、景況感はさほど良くないが、雇用や人材育成も適正に推移している。

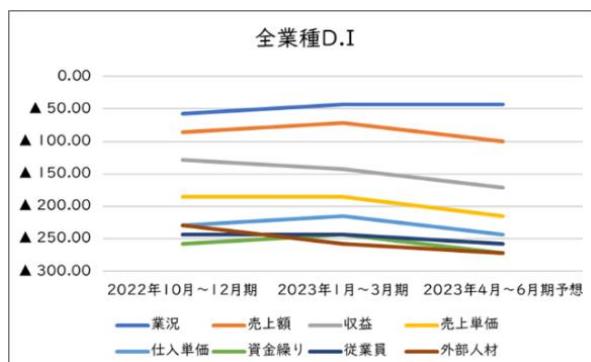
【2】 景況調査

① D.I（ディファージョン・インデックス）による分析。

D.Iとは景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示しており、地域別・業種別の分析指標としている。

② 2023年1月～3月期の全地域景況感は、ほぼ横ばい状態で依然マイナスの厳しい状況。

当期の業況D.Iは▲42.86%ポイントとなり、前期からわずかに上昇した。売上単価・仕入単価に関するD.Iは上昇したが、売上額・資金繰りは停滞、収益・従業員・外部人材に関するD.Iは低下した。2023年4～6月期は、ほぼ横ばい状態で、依然マイナスの厳しい予想となっている。



③ 姫路地域の「建設業は低下」「不動産業は横ばい」、その他の業種は改善した。

但陽信用金庫の取引先全地域の6業種（製造業・卸売業・小売業・サービス業・建設業・不動産業）の調査では、2023年1月～3月期の全地域における業況D.I実績では、姫路地域の建設業は低下し、不動産業は横ばいである。その他の業種は改善している。また、4月～6月期の姫路地域では、卸売業と建設業で低下の予想となっている。

【3】 中小企業診断士からのコメント

新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが、「5類」に引き下げられた為、今後はコロナ前のような経済活動に回復していくことが見込まれる。一方、実質無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」は、多くの企業で2023年夏に無利子が適用される3年の期間が終わり、7月頃には返済が開始される。既に、建設業の倒産件数は増加しており、他の業種に派生していく可能性もある為、コロナ借換保証制度なども利用し、危機を乗り越えて頂きたい。

(令和5年5月13日 中小企業診断士 荒木慎吾氏)

II 兵庫県の経済・雇用情勢（「兵庫県の経済・雇用情勢」（令和5年4月12日）から引用）

I. 概況（全体の状況）

本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

景況等…企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは悪化すると見込んでいる。

需 要…個人消費は、持ち直している。輸出は、増加している。設備投資は、減少計画にあるものの堅調である。

生 産…生産は、持ち直しの動きとなっている。

雇 用…有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は、弱めの動きとなっている。

金 融…倒産件数は、前年を上回った。本県の経済・雇用情勢は、持ち直しの動きを見せつつ、総じて厳しい状況となっている。

主要指標の推移

①景況

現状（良い一悪い）構成比（%ポイント）

区分	R4.6月	R4.9月	R4.12月	R5.3月（予測）	R5.6月（予測）
全産業	▲3	3	2	5	2
大企業	6	8	10	6	6
中堅企業	▲1	10	3	11	9
中小企業	▲8	▲2	▲3	2	▲4
うち製造業	▲5	▲1	▲3	▲3	▲4
うち非製造業	0	10	7	17	9

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

②需要

項目	R2年度	R3年度	R4.10月	R4.11月	R4.12月	R5.1月	R5.2月
商業販売額：億円 (前年度比増減率%)	17,960 (+1.1)	18,016 (+0.3)	1,529 (+3.0)	1,502 (+1.5)	1,879 (+4.8)	1,506 (+1.2)	1,375 (+2.9)
乗用車販売台数：台 (前年度比増減率%)	152,809 (▲8.7)	141,627 (▲7.3)	11,632 (+21.6)	12,503 (+5.9)	11,679 (▲1.1)	13,417 (+9.7)	14,454 (+23.2)
新設住宅着工数：戸 (前年度比増減率%)	30,551 (▲3.2)	29,844 (▲2.3)	3,274 (+21.3)	2,930 (+4.3)	2,651 (+2.2)	2,775 (+59.2)	2,081 (▲10.3)
神戸港輸出額：億円 (前年度比増減率%)	49,756 (▲8.4)	61,520 (+23.6)	6,689 (+23.7)	6,641 (+31.7)	6,891 (+19.2)	4,733 (+11.4)	5,979 (+16.5)

（出所）商業動態統計（経済産業省）、新車登録速報（日本自動車販売協会連合会兵庫県支部）、軽自動車新車届出状況（兵庫県軽自動車協会）、住宅着工統計（国土交通省）、神戸港貿易概況（神戸税関）（商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース）

項目	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (見込)	R5年度 (計画)
設備投資額（前年度比増減率：%） (H27年度比：H27=100)	▲1.2 (113.9)	2.4 (116.6)	▲13.4 (101.0)	22.5 (123.7)	▲7.1 (114.9)

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

③生産

項目	R2 年度	R3 年度	R4.9 月	R4.10 月	R4.11 月	R4.12 月	R5.1 月
鉱工業生産指数：H27=100 (前月比増減率%)	93.1 (▲10.3)	93.9 (0.9)	98.3 (+1.0)	100.0 (+1.7)	96.9 (▲3.1)	95.2 (▲1.8)	102.8 (+8.0)

(月次は季節調整値、年度は原指標。年度増減率は前年度比較) (出所) 兵庫県鉱工業指数(県統計課)

④雇用

項目	R2 年度	R3 年度	R4.10 月	R4.11 月	R4.12 月	R5.1 月	R5.2 月
有効求人倍率(季節調整値)：倍	0.97	0.94	1.06	1.07	1.08	1.06	1.02
新規求人件数(原数值)：人 (前年度比増減率%)	26,812 (▲20.0)	28,235 (+5.3)	32,540 (+6.3)	29,402 (+10.8)	28,849 (+1.6)	31,398 (▲3.1)	28,965 (+1.7)
雇用者所得計：円 (前年度比増減率%)	5,418 (▲4.7)	5,340 (▲1.4)	4,685 (+3.4)	5,283 (+9.4)	9,324 (+4.4)	4,741 (+0.5)	- (-)

(有効求人倍率の年度値は原数值、現金給与総額の年度値は年平均) (出所) 一般職業紹介状況(厚生労働省
兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

⑤金融

項目	R3 年度	R4 年度	R4.11 月	R4.12 月	R5.1 月	R5.2 月	R5.3 月
企業倒産件数：件 (前年度比増減率%)	329 (▲16.9)	368 (+11.9)	29 (▲3.3)	33 (+10.0)	35 (+45.8)	32 (+68.4)	48 (+118.2)
企業倒産負債総額：億円 (前年度比増減率%)	590 (▲50.1)	649 (+120.5)	84 (+304.8)	25 (+102.1)	12 (▲54.9)	138 (+2349.8)	42 (+96.3)

(出所) 兵庫県企業倒産状況(東京商工サーチ神戸支店)

(参考1)全国景気の現状についての内閣府のコメント

- 景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。
- ・個人消費は、緩やかに持ち直している。
 - ・設備投資は、持ち直している。
 - ・輸出は、弱含んでいる。
 - ・生産は、このところ弱含んでいる。
 - ・企業収益は、総じて見れば改善しているが、そのテンポは緩やかになっている。企業の業況判断は、持ち直しの動きがみられる。
 - ・雇用情勢は、持ち直している。
 - ・消費者物価は、上昇している。

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

(令和5年3月22日 内閣府「月例経済報告」)

(参考2)県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント

管内の景気は、持ち直している。

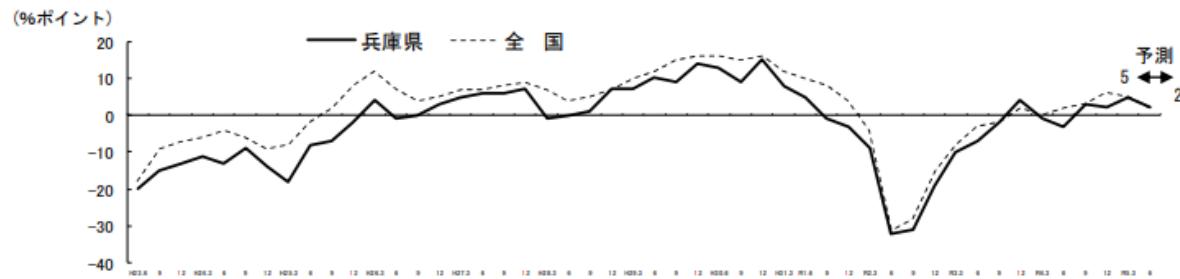
個人消費は、持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増加している。

こうした中、生産は、緩やかに増加している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

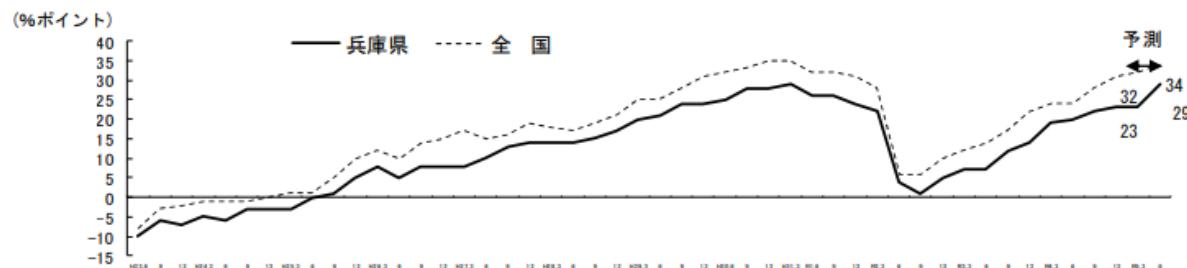
(令和5年4月7日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」)

日本銀行神戸支店県内企業短期経済観測調査結果の推移

業況判断D I (良いー悪いの推移)



雇用人員判断D I (不足ー過剰の推移)



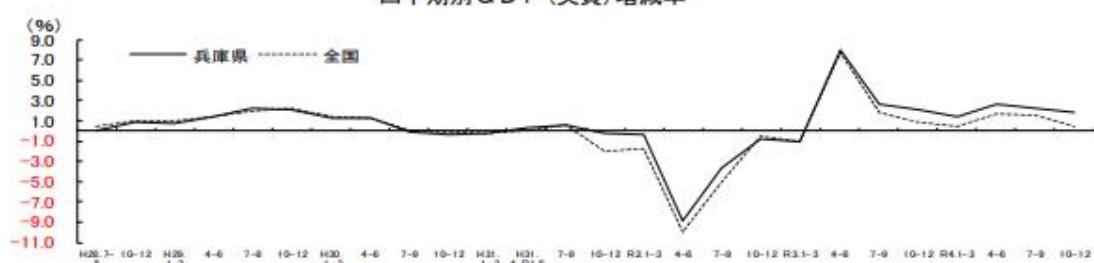
出所：令和 5 年 3 月全国・県内企業短期経済観測調査(日本銀行、同神戸支店)

GDP

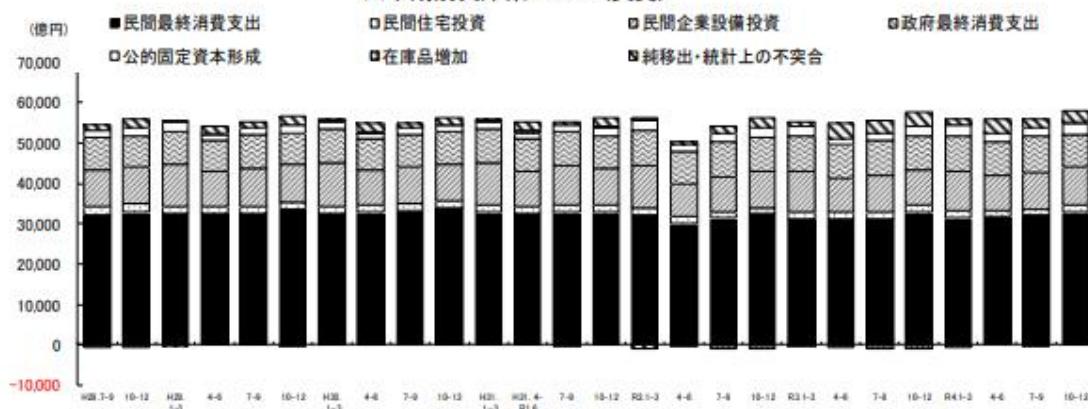


実質GDP(R4.10~12月期)は、民間住宅投資、地方政府等最終消費支出、在庫変動が対前年同期比でプラスに転じ、民間最終消費支出、民間企業設備投資、公的固定資本形成、純移出等が引き続きプラスで推移し、対前年同期比は1.9%とプラスとなつた。

四半期別GDP(実質)増減率



四半期別兵庫県GDP(実質)



出所：四半期別GDP速報（内閣府）、四半期別県内GDP速報（県統計課）

兵庫県・四半期別GDP(実質) (億円、増減率%)

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
GDP(実質)	221,675	221,885	222,083	214,240	221,442
前年度比	1.7	0.1	0.1	▲3.5	3.4

	R2.10-12	H3.1-3	H3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12
GDP(実質)	55,703	54,790	54,391	54,686	56,843	55,522	55,819	55,879	57,896
前年度比	▲0.7	▲1.1	8.0	2.6	2.0	1.3	2.6	2.2	1.9

兵庫県・四半期別GDP(名目) (億円、増減率%)

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
GDP(名目)	221,771	222,008	223,117	217,359	218,612
前年度比	1.6	0.1	0.5	▲2.6	0.6

	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6	R4.7-9	R4.10-12
GDP(名目)	56,942	54,970	54,414	53,783	56,242	54,173	53,813	52,696	56,042
前年度比	0.0	▲0.8	5.3	0.0	▲1.2	▲1.5	▲1.1	▲2.0	▲0.4

注1) 今後公表される年度確報値とのあいだに若干の差異が生じる場合がある。

また、推計精度をより高めるため、各計数は過去にさかのぼって変更されることがある。

前年度比は原数値の増減を示す。

注2) 数値は、平成27年基準値となっている。

注3) 令和2年度までの年度数値は「県民経済計算」(県統計課) 令和3年度の年度数値は「四半期別GDP」(県統計課)

2. 県内の主要業種の概況

業種	概況
化 学 工 業	<p>景況感は良くも悪くもない。資源高の影響もあり、昨年と比較すると良くない。先行きについても、徐々に良くなっていくだろうが、良くも悪くもないだろう。</p> <p>前年の同時期と比較すると原燃料高の影響により利益は減少しているものの、価格転嫁は徐々に進んでいる。また、受注、需要にも大きな変化はない。</p> <p>雇用人員は適正で、来年度の採用人数についても今年度と同規模の予定。柔軟な働き方の一つの手段として、事務職、研究職を中心に引き続き在宅勤務を実施している。脱炭素化社会に向けた環境への取組や、業務自動化による生産性向上への取組についても、今後検討していきたい。</p>
はん用機械製造業	中国市場の影響が大きいが、中国市場があまり良くないこともあります、景況感はさほど良くない。今後の見通しとして、新型コロナウィルスの影響が緩和されたこともあり、少しは状況が良くなるのではな

		<p>いかと考えている。</p> <p>足元の生産量が減少しているため生産人員に余剰が生じている一方で、開発部門では人手が不足している。開発部門の人員については、募集を行っており、ある程度の応募もある。</p> <p>原材料価格の高騰によりコストが上がり、収益を圧迫している状況。価格転嫁も実施しているものの、原材料価格の高騰分全てを吸収できているわけではない。</p>	
そ 製	の 造	他 業	<p>直近期の売上高は過去最高を記録するなど景況感は良い。今後も業界全体で、需要が堅調に推移すると考えている。円安の影響により売上・利益が押し上げられているが、円安の影響を差し引いても売上は伸びている。</p> <p>新型コロナウィルスの影響が緩和したこともあり、客単価、客数共に増加している。海外と比較すると、日本は少し戻りが遅い状況。インバウンド需要も新型コロナ前の約 80%まで回復している。</p> <p>価格転嫁は行っているものの、原材料価格の高騰に追いついていない。北米では港湾の人手不足が以前よりは緩和されているものの、依然として続いている、コストが高いままである。</p>
電 製	気 造	機 業	<p>景況感は良くも悪くもなく、先行きも同様である。新たな制度の整備により、今年の秋・冬頃に少し状況が良くなるのではないかと期待している。</p> <p>原材料価格の高騰により、顧客の経営状況があまり良くないため、投資を抑制している影響を受けている。原材料価格は依然として高騰しており、濃淡はあるものの、価格転嫁を進めている。半導体も依然として調達が困難な状況が続いている。雇用面は適正な状況で、求人募集も予定通り一定の応募がある状況。</p>
そ 製	の 造	他 業	<p>サプライチェーンの混乱で一時製品不足が続いたため、販売店が在庫確保のため通常より注文が増えており、業界全体として需要が旺盛である。生産が追いつかない状況だが、今後の需要の反動減が懸念される。</p> <p>コロナ禍での衛生ニーズの高まりから引き続き高付加価値商品の販売が好調で、昨年比 2 倍の販売台数となっている。</p> <p>自動車EV化等に伴う電子部品の需要増でやや部品調達難となっている。また、エネルギーや原材料価格高騰分は価格引上げにより一部転嫁できている。</p> <p>新卒・中途ともに募集をかけても応募がふるわない状況で、特に DX・IT 等の専門職人材が不足している。昔と比べて転職ハードルも下がっており、人材確保に苦慮している。</p>
宿 宿	泊 泊	業 業	<p>宿泊客は戻ってきているものの、コロナ前の水準と比較すると稼働率は低い。外国人宿泊者数も徐々に増えてきている。アジアからの宿泊者が多いため、中国人観光客は少ない。4月以降も全国旅行支援が継</p>

	<p>続されるため、今後も宿泊者の増加が見込まれる。またコロナ禍で大きいイベントがなかったが、宴会も徐々に回復しつつある。</p> <p>内定を辞退されるケースも散見され、人材確保が課題となっている。令和5年4月の採用数は例年より多いが、人材育成も課題である。</p>
--	--

令和5年3月 兵庫県産業労働部調査

3. 地域の概況

地 域	業 種	概 况
神 戸	食 製 料 造 品 業	<p>昨年10月、大手メーカーが一斉に清酒の値上げを実施。買い控えが起きているためか、昨年度（及びコロナ前の2019年度）と比較して出荷量は10%減少した。一方で、値上げの効果で売上としては昨年度比5%増えた。</p> <p>コロナの5類への移行に伴い、飲食店での消費が拡大することを期待したい。春闘以降、賃上げも予定しており、景況感へのプラス材料もあるが、4月から清酒以外の商品の値上げを考えており、買い控えが起こる可能性がある。今後の景況感としてはしばらく横ばいの状態が続くと予想される。</p>
	食 製 料 造 品 業	<p>原材料費、光熱費の高騰により、大幅な値上げを余儀なくされている。売上は確保できても利益は出ていないので、現状は蓄えを切り崩して経営を維持している。蓄えのない中小企業は、後継者不足も相まって、廃業を考える経営者が後を絶たない。長期化する戦争の影響も色濃く、現状、先行きとも景況感は非常に悪い。</p> <p>働き方改革による労働時間の縮減や有給休暇の強制取得など、遵守すべきものではあるが、雇用する側としては人的コスト増の要因となり厳しい。</p>
阪神南	飲 料・た ば こ・飼 料 製 造 業	<p>包装資材・副原料の高騰は続き、瓶は仕入先工場の閉鎖もあり逼迫する可能性がある。10%の資材値上げ要請を受け入れるが、昨年10月の清酒値上げ以降、売上が1割程減少しており、再度の値上げは消費者離れが心配される。10月に酒税が引下げられるが、値段を変更せず実質値上げとするメーカーもありそうだ。今後も稻作肥料の輸入減による加工米の高騰が見込まれる。</p> <p>一方、清酒の輸出は好調であり、13年連続で前年を上回り過去最高となる見込みである。</p>
	はん用機械器具製造業	景況感はさほど良くない。昨年から燃料価格の高騰や原材料価格の高騰、入手困難などが発生し、景気の

阪神南 (続き)	はん用機械器具製造業	<p>下押し要因となっているが、確実に回復してきており、今後順調に伸びる予定。ただ、エラストマー・電子部品等は調達がかなり困難となっており、納期の順守に苦慮している状況。複数発注や代替材料の利用で対応しているが、価格転嫁は2割に留まる。</p> <p>また、電力関連は水素・アンモニアなどにエネルギー転換の機運が高く、設備投資が活発化する見込み。</p>
阪神北	各種商品業	<p>第3四半期(10月～12月)においてファッショゾーンとリビングゾーンを大改装し 雑貨食品の有名専門店へ賃貸。その変更により売上の構成比がほとんど食料品になった。有名専門店のオープンで客数は増えるものの、食料品の値上げ等により消費者の買い控えを招き、第4四半期(1月～3月)の売上は前期と比べて5%減少の見込みである。</p> <p>最近は鳥インフルエンザによる卵の不足・価格高騰が洋菓子等に影響が出てきており、その上電気代の高騰もあって景況感はさほど良くない状況である。</p> <p>今後はマスク着用緩和による外出機会の拡大に伴い、売上が増加することを期待している。またイベントを企画して誘客を図りたい。</p>
東播磨	化学生産業	<p>景況感はさほど良くない。</p> <p>半導体不足や物価高による影響を受けており、昨年同時期に比べて受注や需要、利益が減少している。</p> <p>今後需要の増加を見込んでいる部門では、製造ラインの増設を行っている。</p> <p>退職者の補充や今後の施設増強、合理化に向けて求人を行っているが、お互いの条件が合わず、人員は不足している。</p>
	鉄鋼業	<p>半導体不足等の影響を受け自動車の生産の回復が遅れおり、売上高や利益は減少しているため、現在の景況感はさほど良くない。一方で、原料炭などの高騰していた原材料価格は以前に比べて安くなってしまっており、加えて、為替についても昨年に比べて落ちているため、今後の見通しはさほど悪くない。</p> <p>雇用については、予定通り採用ができており、適正状況である。</p>
北播磨	織維製品製造販売業	<p>景況感はさほど良くはないが、行動制限が緩和され、経済再開の動きから少しずつではあるが回復傾向にあり、半導体不足の影響により停滞していた自動車向け需要も上向き傾向にある。</p> <p>一方、海外調達が主である原材料（原糸）価格や光熱費の高騰は取引先企業にとっても大きな負担となっており、取引価格の値上げ交渉に応じている。求人面では独自のエントリー制にて大学生を確保しており新</p>

		卒初任給の引き上げもおこなっている。
北播磨 (続き)	金 製 属 製 品 業	<p>景況感は悪い。</p> <p>コロナ禍においては業界的には特需傾向も見受けられたが、為替相場の急激な変動による原材料の高騰や光熱費などの物価上昇に仕入れメーカーの減少も加わり、コストの増加に直面しているが、情報機器による生産管理システムの再構築を行い諸経費の削減に取り組んでいる。</p> <p>下請企業は経営者の高齢化や後継者不足等による廃業により減少している。</p>
中播磨	総 合 工 事 業	<p>四半期数値は事業ごとに変動幅が大きいため、通年判断は決算期に委ねられるが、直近の景況感はさほど良くないと感じている。原材料価格は生コンを中心に高騰しており、売上収益とともに大きく影響を受ける。</p> <p>今後も原材料の安定調達及び価格転嫁交渉は必要と感じている。</p> <p>雇用については例年通り採用を継続し、一連の人材育成のなかで必要な資格取得を着実に支援しており、公共事業を中心とした業務の遂行に生かしている。</p>
	化 学 工 業	<p>增收減益傾向で、景況感はさほど良くないと感じている。海外輸出が多く、一時期と比べ円高となっていることからマイナスの影響が出ている。また、主要原料の価格は落ち着きつつあるが、継続して価格転嫁交渉を進めるとともに、サプライチェーン全体を対象とした合理化による改善に取り組んでいる。</p> <p>雇用は適正に推移しており、採用もおおむね計画通り充足している。引き続いて多様な働き方改革の推進にも取り組んでいる。</p>
西播磨	宿 泊 業	<p>業績は良い。補助制度が後押しして、現在予約は3月末まで満室状況である。キャンペーンも夏まで延長の情報があり3カ月後も忙しくしていると推測する。</p> <p>一方で、売上は良くても、物価の高騰等で利益には影響がある。</p> <p>コロナで延期になっていた、客室のリニューアル工事を4月から開始するため、一時的に受入れ客数が減り、売上も減少となる。客室を増設するわけでは無く、現状の客室のグレードアップを目指し、快適な空間で過ごしていただきたいという思いでの工事となる。設備投資も大幅に増えることとなるが、より良い接客で今後も頑張っていきたい。</p>
	無 機 化 学 品 業	業績はさほど良くない状況で、今後もさほど良くないと予想している。売上についてはコロナ前に戻りつつある状況で、昨年度よりは上昇している。原材料価格の高騰、包装材料の高騰が経営にマイナスの影響を与えており利益については毎期毎にかなりの減少が見

西播磨 (続き)		<p>られる。アンテナショップについては客数も増加しており、好調である。</p> <p>いずれにても厳しい状況ではあるが、諸経費の削減や業務の見直し、特に生産管理や人事給与等にIoTやRPAの導入検討、アンテナショップ展開等多方面にわたって経営努力をしている。</p>
但馬	印 刷 ・ 同 関 連 業	<p>景況感はさほど良くない。1～3月の受注、需要の状況は、前四半期比16%減少、昨年同期比12%増加した。設備投資は前年度より50%程度増加。省エネ補助金を利用し、工場製造ラインを省エネ設備に切り替えを予定している。</p> <p>今年度はコロナ禍で人件費削減を目的に、高卒区分と中途採用のみを採用していたが、令和5年度から大卒・専門学校卒区分も募集再開。併せて新規採用者の給与を4～5%上げることを検討している。</p>
	宿 泊 業	<p>景況感はさほど良くない。全国旅行支援が延長されたのを受けて、3月は家族客や卒業旅行の学生客で満室となっている。一方で、サービス部門の社員が不足しており、受け入れ能力の低下が課題となっている。例年需要がある地元産のズワイガニ付き宿泊プランは、水揚げ量が少なく、価格高騰もあり設定できなかった。</p> <p>地域全体を見ても消費需要は回復半ばであり、切れ目のない観光支援を実施してほしい。</p>
丹波	觀 サ 一 ビ ス 業	<p>景況感は良い状況である。マイクロツーリズムの浸透により、観光客数がコロナ禍前を上回り、売上と利益見通しについても、既にコロナ禍前を上回っている。材料費等の高騰に伴い、販売商品やレストランのメニューの値上げを実施しているが、売上や利益は増加している。</p> <p>地域共通クーポンの利用も増えてきており、今後も景況感は良い見通しである。</p>
	機 械 器 具 小 売 業	<p>景況感はあまり良くない状況である。主要商品である端末価格が高騰しているため、端末の利用年数が長くなり、結果端末更新を見送る動きがある。また、端末をオンラインショップで購入するユーザーも年々増えてきているため、店舗への来客数および売り上げとともに減少傾向にある。</p> <p>スマホ端末については、半年前まで、1ヶ月程度の入荷待ちであったが、現在は解消されつつある。</p>
淡路	宿 泊 業	<p>全国旅行支援の影響により、今期末まではほぼ満室の状態であり景況感は良い。一方で、宿泊業界は、慢性的な人員不足が続いているおり、大阪・関西万博に向けて、さらに労働力の厳しい状況が続くと思われる。シニア世代への求人募集については、業務の切り分けを</p>

		行うなどの工夫を行い、少しづつ採用につながっている。また、予約受付時間の短縮を行うなど、業務の効率化を図っている。
淡路 (続き)	建 設 業	<p>前期、前年同時期とほぼ変化はないが、現在も一定の工事の受注があるなど、景況感は良い。原油・原材料価格高騰で、重機の調達が困難になるなどの影響が出ており、事前調達などの対応を行っている。また、現場管理の簡素化や、ICT施工を進めるなど、業務改善・構造改善に取り組んでいる。</p> <p>雇用については、若年者の離職や、業界全体で技術者の深刻な人材不足が続いていること、人手の確保には厳しい状況が今後も続く見込みである。</p>

令和5年3月 県民局・県民センター調査

III. 景況調査

I. 景況調査について

○『D.I (ディファージョン・インデックス)』による分析

D.I. とは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、「良い」20% - 「悪い」30% = -10%となり、D.I. 値は-10 ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10 件	20%
不变	25 件	50%
悪い	15 件	30%
合計	50 件	100%

○引用する調査書と有効回答数について

本レポートの作成にあたり、但陽信用金庫が四半期毎に実施する「景気動向調査」の調査結果を引用しています。

(対象期間内における有効回答数)

	エリア	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
景気動向調査 (但陽信用金庫)	取引先全地域				516 件		
中小企業景況調査 (福崎町商工会)	-	1 件	0 件	2 件	3 件	1 件	0 件

○業種の分類について

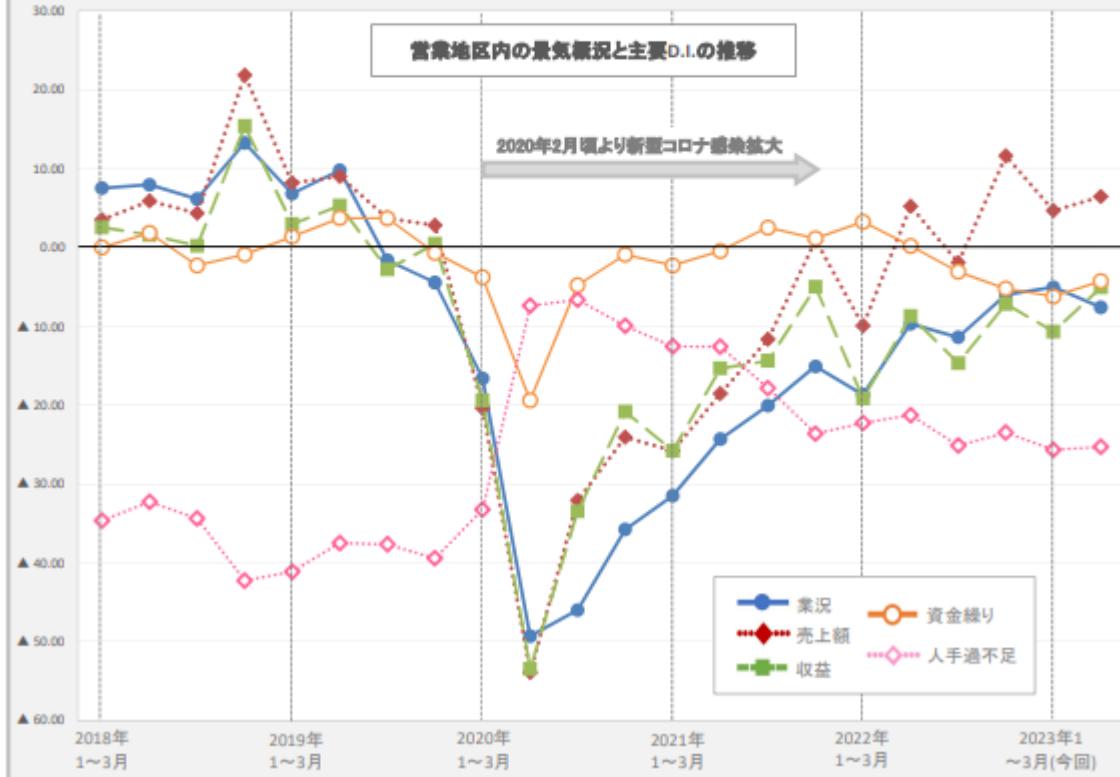
本レポートでは、飲食・宿泊業は「サービス業」とあわせて集計しています。

2. 概況（全業種総合）

《但陽信用金庫》

今期の全地域・全業種における業況D.I.は▲5.06と前期から0.95ポイント改善しましたが、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.が軒並み低下しており、厳しい実績となりました。来期は業況D.I.が低下するものの、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.が改善する予想となっています。年末年始のコロナウイルス感染第8波が収束に向かい一つあり、5月8日には「5類」への感染法上の位置づけが変更されるなど、感染状況に景気が左右されることのない「ウィズコロナ」の本格化が期待されています。また、未だ先の見えないウクライナ戦争や半導体等の供給制約、エネルギー・原材料価格の高騰、米国発の金融不安連鎖の懸念など、不安材料が続く一方で、賃上げによる個人消費やインバウンド需要の回復など、経済活動の正常化への動きも活発化しています。

D.I.	2022年10～12月期	2023年1～3月期(今回)	2023年4～6月期(予想)
業況	▲ 6.01	▲ 5.06	▲ 7.60
売上額	11.61	4.66	6.43
収益	▲ 7.16	▲ 10.68	▲ 5.07
資金繰り	▲ 5.22	▲ 6.23	▲ 4.28
人手過不足	▲ 23.50	▲ 25.68	▲ 25.29



《福崎町商工会》

(全業種)	2022年 10月～12月期	2023年 1月～3月期	2023年 4月～6月期予想
業況	▲57.14	▲42.86	▲42.86
売上額	▲28.57	▲28.57	▲57.14
収益	▲42.86	▲71.43	▲71.43
売上単価	▲57.14	▲42.86	▲42.86
仕入単価	▲42.86	▲28.57	▲28.57
資金繰り	▲28.57	▲28.57	▲28.57
従業員	14.29	0.00	14.29
外部人材	14.29	▲14.29	▲14.29

[2023年1～3月期]：ほぼ横ばい状態で依然マイナスの厳しい状況

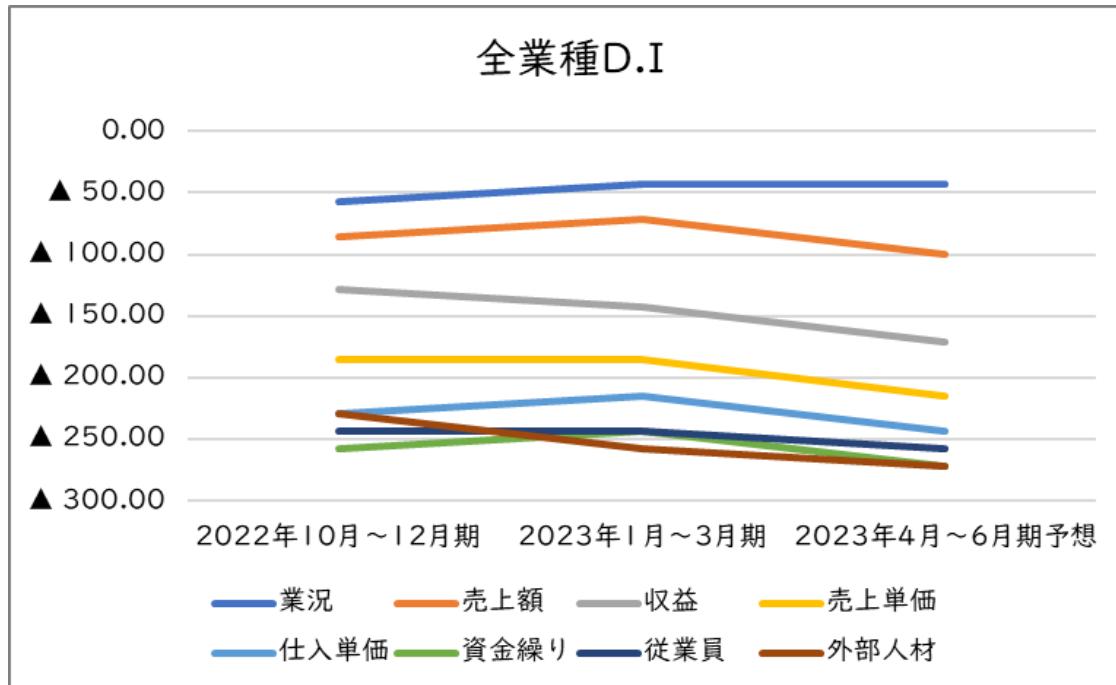
当期の業況 D.I は▲42.86% ポイントとなり、前期からわずかに上昇した。

売上単価・仕入単価に関する D.I は上昇しましたが、売上額・資金繰りは停滞、収益・従業員・外部人材に関する D.I は低下しました。

[2023年4～6月期]：ほぼ横ばい状態で依然マイナスの厳しい予想

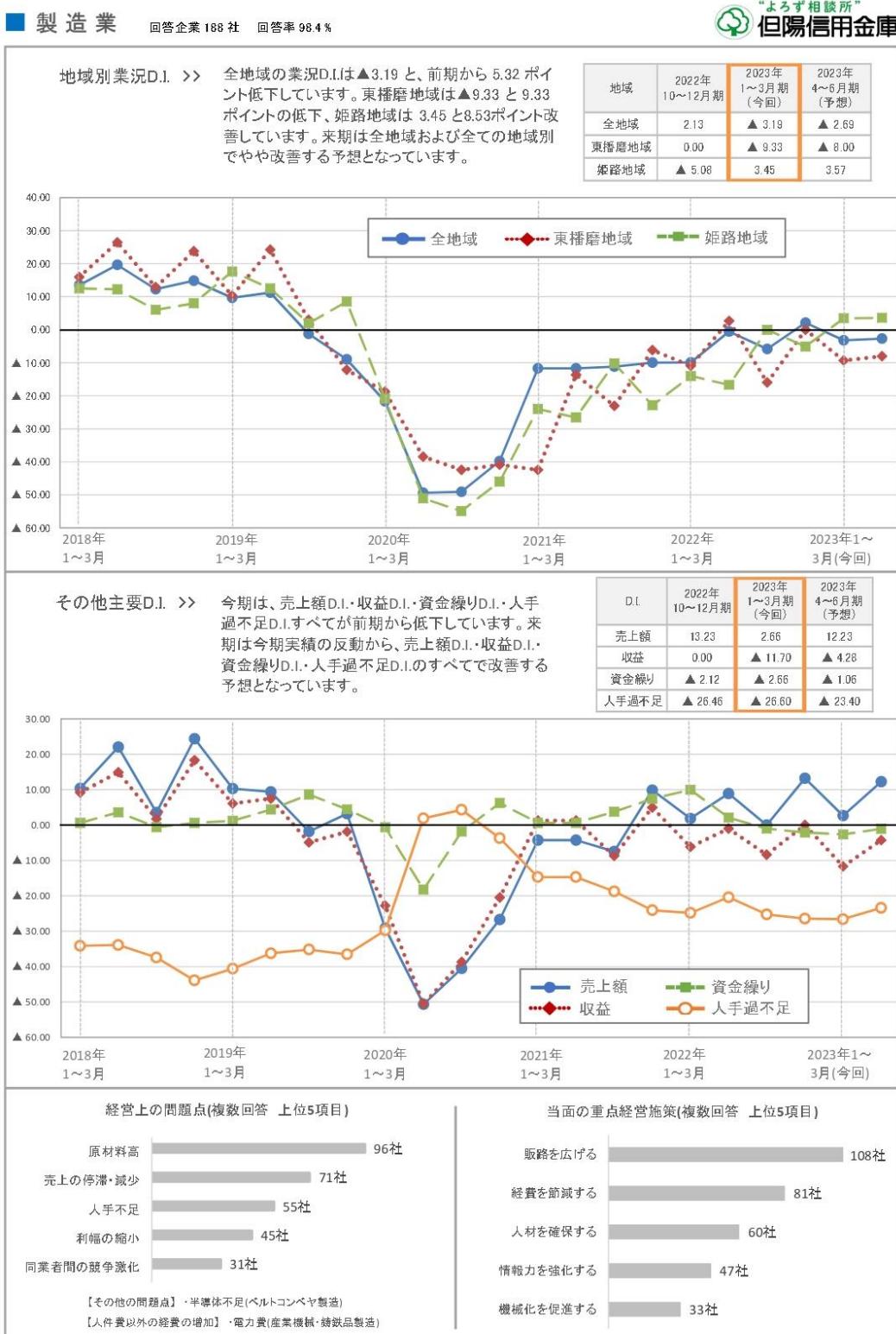
来期の予想業況 D.I は▲42.86 ポイントで停滞予想です。

従業員に関する D.I が上昇し、売上額に関する D.I が低下、収益・売上単価・仕入単価・資金繰り・外部人材に関する D.I においては停滞予想です。



3. 業種ごとの集計《但陽信用金庫》

(1) 製造業



(2) 卸売業

卸売業

回答企業 48 社 回答率 100.0 %



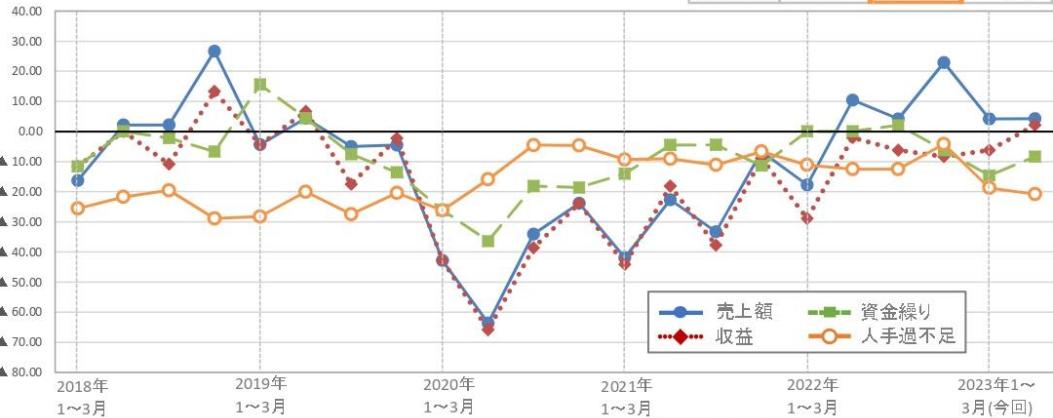
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は0.00と、前期から16.67ポイント改善し、東播磨地域は10.53ポイント低下の▲15.79。姫路地域は16.67と37.50ポイント改善しています。来期は全地域・姫路地域が低下、東播磨地域は横ばいの予想となっています。

地域	2022年 10～12月期 (実績)	2023年 1～3月期 (今回)	2023年 4～6月期 (予想)
全地域	▲ 16.67	0.00	▲ 12.50
東播磨地域	▲ 5.26	▲ 15.79	▲ 15.79
姫路地域	▲ 20.83	16.67	▲ 4.17



その他主要D.I. >> 売上額D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.は前期から低下し、収益D.I.は改善しています。来期は売上額D.I.は横ばい、収益D.I.・資金繰りD.I.が改善、人手過不足D.I.は低下する予想となっています。

D.I.	2022年 10～12月期 (実績)	2023年 1～3月期 (今回)	2023年 4～6月期 (予想)
売上額	22.92	4.17	4.26
収益	▲ 8.33	▲ 6.25	2.08
資金繰り	▲ 6.25	▲ 14.58	▲ 8.33
人手過不足	▲ 4.17	▲ 18.75	▲ 20.83



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

同業者間の競争激化	25社
売上の停滞・減少	24社
仕入先からの値上げ要請	15社
人手不足	8社
利幅の縮小	8社

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

販路を広げる	37社
情報力を強化する	16社
経費を節減する	13社
人材を確保する	12社
品揃えを充実する	10社

(3) 小売業

■ 小売業 回答企業 66 社 回答率 98.5 %

“よろず相談所”
但陽信用金庫

地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は▲15.38と、前期から9.99ポイント改善しています。東播磨地域は▲28.57と5.84ポイント低下、姫路地域は▲3.70と17.73ポイント改善となりました。来期は全地域・地域別で改善する予想となっています。

地域	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
全地域	▲ 25.37	▲ 15.38	▲ 13.85
東播磨地域	▲ 22.73	▲ 28.57	▲ 14.29
姫路地域	▲ 21.43	▲ 3.70	0.00



その他主要D.I. >> 今期は売上額D.I.-収益D.I.-資金繰りD.I.-人手過不足D.I.のすべてで、前期から改善しています。今期とは対称的に来期は売上額D.I.-収益D.I.-資金繰りD.I.-人手過不足D.I.のすべてで低下する予想となっています。

D.I.	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
売上額	▲ 1.49	4.55	▲ 3.08
収益	▲ 19.40	▲ 15.15	▲ 16.92
資金繰り	▲ 13.43	▲ 1.54	▲ 4.62
人手過不足	▲ 18.46	▲ 12.12	▲ 16.92



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

売上の停滞・減少	31社
利幅の縮小	27社
仕入先からの値上げ要請	20社
人手不足	15社
同業者間の競争激化	13社

【その他の問題点】・光熱費(自動車整備)、在庫処分(飲食料品販売)

設備投資の実施と予定

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

経費を節減する	37社
人材を確保する	17社
宣伝・広告を強化する	15社
品揃えの改善	13社
売れ筋商品を取扱う	12社

【その他の重点経営施策】・値上げ(印鑑製造)

(4) サービス業

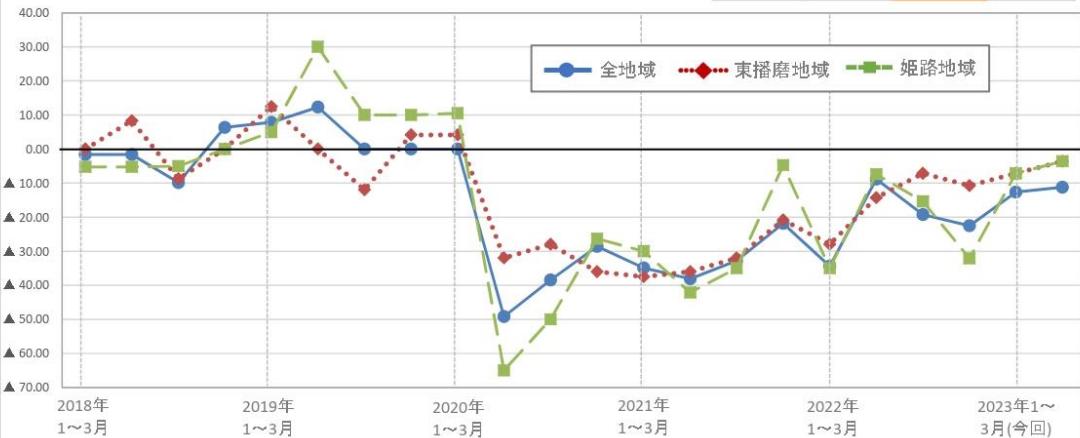
■ サービス業 回答企業 80 社 回答率 100.0 %



地域別業況D.I. >>

全地域の業況D.I.は▲12.66と、前期から9.84ポイント改善しています。東播磨地域は▲7.14と3.57ポイントの改善、姫路地域は▲7.14と25.0ポイント改善となり、全地域・地域別で改善しています。来期も全地域・地域別において改善の予想となっています。

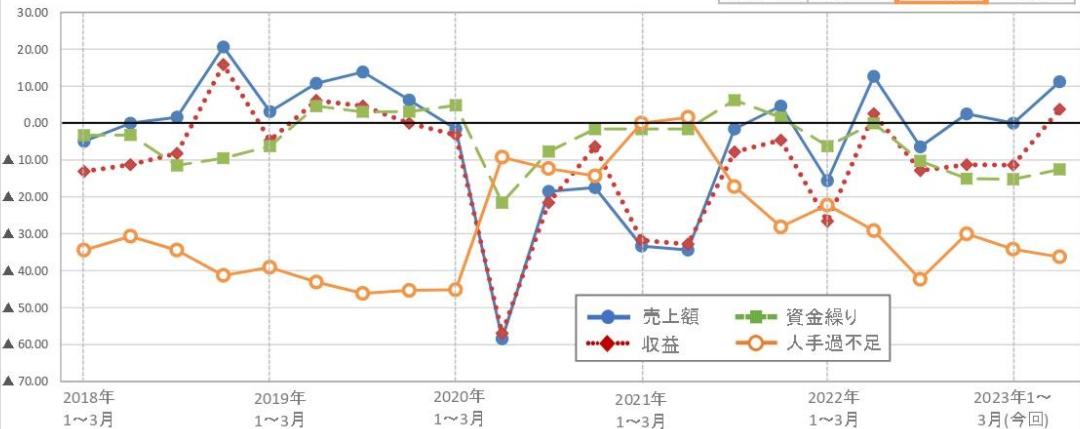
地域	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
全地域	▲ 22.50	▲ 12.66	▲ 11.25
東播磨地域	▲ 10.71	▲ 7.14	▲ 3.57
姫路地域	▲ 32.14	▲ 7.14	▲ 3.57



その他主要D.I. >>

今期は、売上額D.I.-収益D.I.-資金繰りD.I.-人手過不足D.I.のすべてで低下し、厳しい実績となりました。来期は売上額D.I.-収益D.I.-資金繰りD.I.-が改善し、人手過不足D.I.が低下する予想となっています。

D.I.	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
売上額	2.50	0.00	11.25
収益	▲ 11.25	▲ 11.39	3.75
資金繰り	▲ 15.00	▲ 15.19	▲ 12.50
人手過不足	▲ 30.00	▲ 34.18	▲ 36.25



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

人手不足	33社
材料価格の上昇	28社
売上の停滞・減少	27社
同業者間の競争激化	18社
利幅の縮小	15社

【その他の問題点】 -コロナで利用者減(高齢者福祉・介護)
-技術継承(人材派遣・実験計測・振動解析)

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

販路を広げる	35社
経費を節減する	31社
人材を確保する	31社
宣伝・広告を強化する	18社
教育訓練を強化する	13社

【その他の重点経営施策】 -利用者増を図る(高齢者福祉・介護)

(5) 建設業

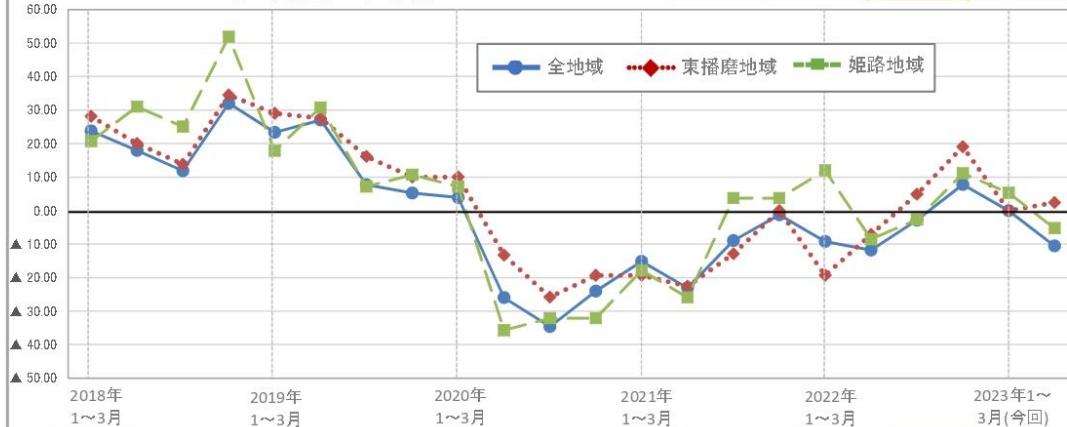
■建設業

回答企業 104 社 回答率 99.0 %



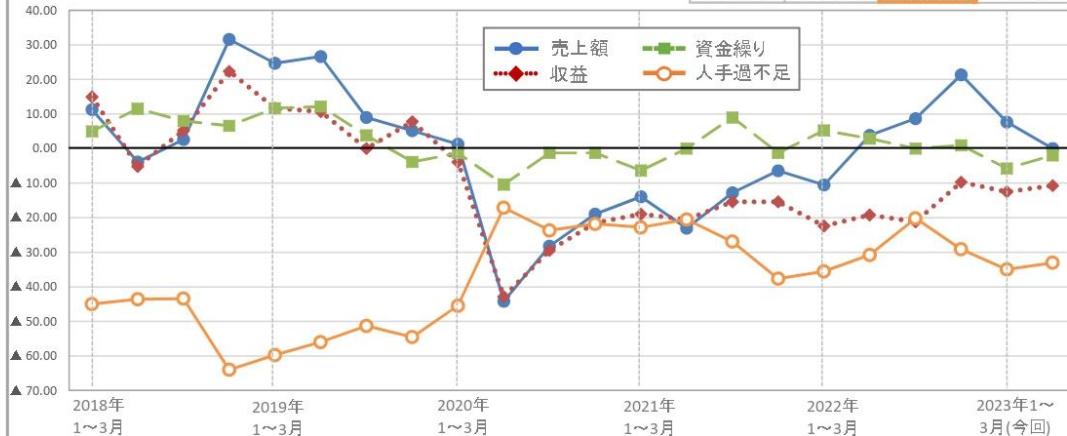
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は0.00と前期から7.77ポイント低下、東播磨地域は0.00と19.05ポイント低下、姫路地域が5.26と5.85ポイント低下となり、全地域・地域別で低下しました。来期は東播磨地域で若干改善するものの、全地域・姫路地域は低下の厳しい予想となっています。

地域	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
全地域	7.77	0.00	▲ 10.58
東播磨地域	19.05	0.00	2.38
姫路地域	11.11	5.26	▲ 5.26



その他主要D.I. >> 今期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.のすべてで、前期よりも低下しています。来期は売上額D.I.が低下、収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.が若干改善する予想となっています。

D.I.	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
売上額	21.36	7.69	0.00
収益	▲ 9.71	▲ 12.50	▲ 10.68
資金繰り	0.97	▲ 5.77	▲ 1.94
人手過不足	▲ 29.13	▲ 34.95	▲ 33.01



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

材料価格の上昇	66社
人手不足	40社
売上の停滞・減少	26社
利幅の縮小	24社
下請けの確保難	21社

【その他の問題点】・後継者問題(衛生空調設備)、職人不足(住宅リフォーム)

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

販路を広げる	47社
人材を確保する	46社
経費を節減する	40社
情報力を強化する	31社
技術力を高める	16社

【その他の重点経営施策】・外注化(住宅リフォーム)

(6) 不動産業

不動産業

回答企業 30 社 回答率 100.0 %



地域別業況D.I. >> 今期の全地域と姫路地域の業況D.I.は、それぞれ0.00 ポイントと前期から横ばい、東播磨地域は4.76ポイント低下しています。来期は全地域・東播磨地域で改善、姫路地域は横ばいの予想となっています。

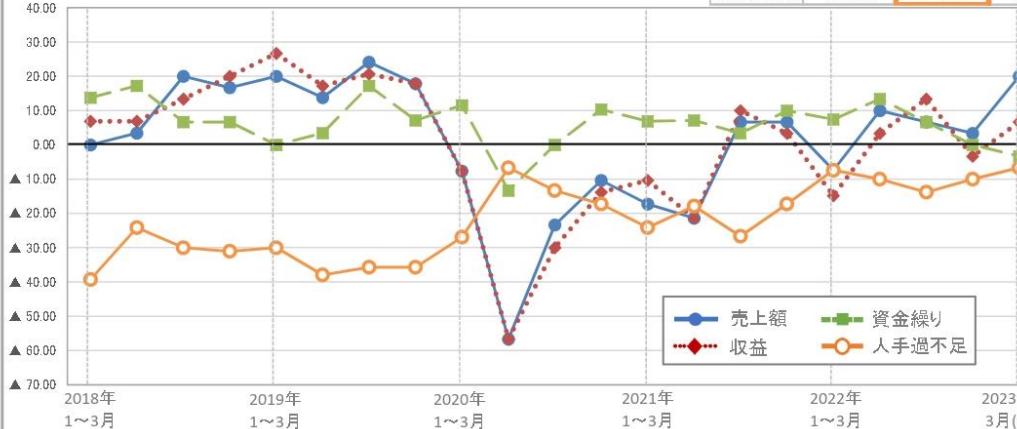
地域	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
全地域	0.00	0.00	3.33
東播磨地域	0.00	▲ 4.76	0.00
姫路地域	0.00	0.00	0.00



その他主要D.I. >>

売上額D.I.-収益D.I.-人手過不足D.I.は前期より改善し、資金繰りD.I.が低下しています。来期は売上額D.I.-収益D.I.が低下、資金繰りD.I.-人手過不足D.I.が横ばいの予想となっています。

D.I.	2022年 10~12月期	2023年 1~3月期 (今回)	2023年 4~6月期 (予想)
売上額	3.33	20.00	3.33
収益	▲ 3.33	6.67	0.00
資金繰り	0.00	▲ 3.33	▲ 3.33
人手過不足	▲ 10.00	▲ 6.67	▲ 6.67



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)

商品物件の不足	12社
同業者間の競争激化	10社
商品物件の高騰	9社
売上の停滞・減少	8社
問題なし	5社

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

情報力を強化する	17社
宣伝・広告を強化する	10社
販路を広げる	6社
人材を確保する	6社
経費を節減する	5社

【その他の重点経営施策】・園児の確保(保育園・不動産賃貸)